商店建築

4
2022

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN/INTERIOR/ARCHITECTURE 2022 Vol.67 No.04

特集
企業の魅力を発信する
“体験型”企業ミュージアム

大特集
OFFICE

個人は集中でき、チームは活性化する。
リラックスして快適に働ける場所がほしい！

1.「Le FRENCH DESIGN 100」の授与式の全体写真（撮影／Eric TSCHAEN/REA）　2.「Le FRENCH DESIGN 100」と「Mobilier national」のコレクションに加わった、デザイナーAnthony Guerréeのチェア「Albertine」。作家マルセル・プルーストの小説からインスピレーションを得た（撮影／Roland Tisserand）　3.「Mobilier national」のコレクションに加わった、デザイナーDimitry Hlinkaによるデスク「Sidobre」。銅、ウォールナットに、フランス中部シドブルで採石した御影石を組み合わせた（撮影／Alexandra Babonneau）

「Le FRENCH DESIGN 100」から見る、フランスにおける家具・空間デザインの潮流

浦田薫（デザインジャーナリスト）

今日のフランスのデザイン界は、どんな様相を呈しているだろうか。

今年1月20日から2月21日まで、“フランスデザイン”の精神が表れた100作品を選出するデザインアワード「Le FRENCH DESIGN 100（フレンチ・デザイン100）」が、フランス大統領エマニュエル・マクロンによる特別後援の下に開催された。日本のグッドデザイン賞に値する同アワードは、CODIFAB（フランスの家具および木材産業の専門委員会）とフランス産業省によって1979年に設立されたフランス創作家具振興会「VIA」が主催する。40年以上にわたり、国内および世界へとフランスのデザインを発信し続け、振興を図ってきた。

100選の対象となるのは、家具やオブジェといったプロダクトと、ホテル、レストラン、ショップなどの空間だ。国際的に権威のある専門家たちで選考委員が構成され、「アール・ド・ヴィーヴル（日常に息づく芸術）」「産業との関係を意識した創造力」「優雅さ」「持続可能な革新性」「伝統」「サヴォアフェール（職人技）」「文化への開眼」を軸に評価される。受賞作品にランク付けはない。今年は、サステイナブルを考慮した作品が注目を集めた。

革新性と持続可能性が求められるクリエイターの役割

同アワードの授与式は、数多くの現代デザイン家具や美術品が置かれる大統領官邸エリゼ宮で開催された。マクロン大統領は、スピーチの中で文化省や経済・財務省、関連団体組織の活動をたたえつつ、コロナ禍という危機の渦中にあるからこそ希望と衝動を与える必要があると主張。デザインが経済や地場活性化の原動力であることを訴えた。更に、受賞者たちに向かい「大胆に決意を持って、日常のあらゆるものを美しく、新しくつくり変えようとすること、美しくすること、意味を持たせること。それがあなたたちです」と締めた。

名誉クリエイターとして招聘（しょうへい）されたフランスのデザイナー、フィリップ・スタルクは「この時代、全てがサステイナブルでなければならない。伝統、永続、継承が最もモダンであるとみなされる時代だ。そのためには、デザインは誠実で賢く、永続的に考えられるべきだ」と述べた。また、フランスデザインを世界に向けて発信・輸出するために不可欠なこととして、「つくり手が流行に起因する早い消費サイクルから脱して、社会的、人間的、エコロジカルな役割に貢献するべきである」と語った。

また、審査員長を務めた、フランス国家の官邸や省庁の家具や調度品を制作・管理する国家機関「Mobilier national」の代表エルヴェ・ルモワンヌは、「『Le FRENCH DESIGN 100』は創造の活力であり、明日の遺産を構成していくもの。受賞作品は、装飾美術とデザインのノウハウを持って、互いに補いながら質を高めている」と評した。

横断的なビジョンでデザインの領域を広げる

「Mobilier national」は、同時期に、新たにコレクションに加える家具を公募。31人のデザイナーによる53点の家具が選出された。それぞれ8ピース限定で制作され、クリエイターには、国家の家具として永久保存されるという名誉が与えられる。ルモワンヌは「国家的に保存される作品と同時に、現代の新しい才能に目を向け、支援することも我々の役割」と強調するものの、書斎机、イス、ソファ、ローテーブル、書棚や照明器具など、それらのスタイルはやや保守的で素材選びや造形もダイナミックさに欠けるように見受けられた。

しかし、横断的なビジョンを持って制作に挑むつくり手の意図は伝わってきた。建築や内装の設計者がプロダクトデザインを手掛けたり、インダストリアルなデザインと工芸を融合したり、環境問題への関心が高まっていたりと、デザインの領域が多角的に広がっていることがうかがえる。パンデミックにより、多くの世界規模の展示会や見本市が中止、延期される中、フランス国内の組織団体による活動が、内なる動向に目を向ける契機になったと言えるのではないだろうか。